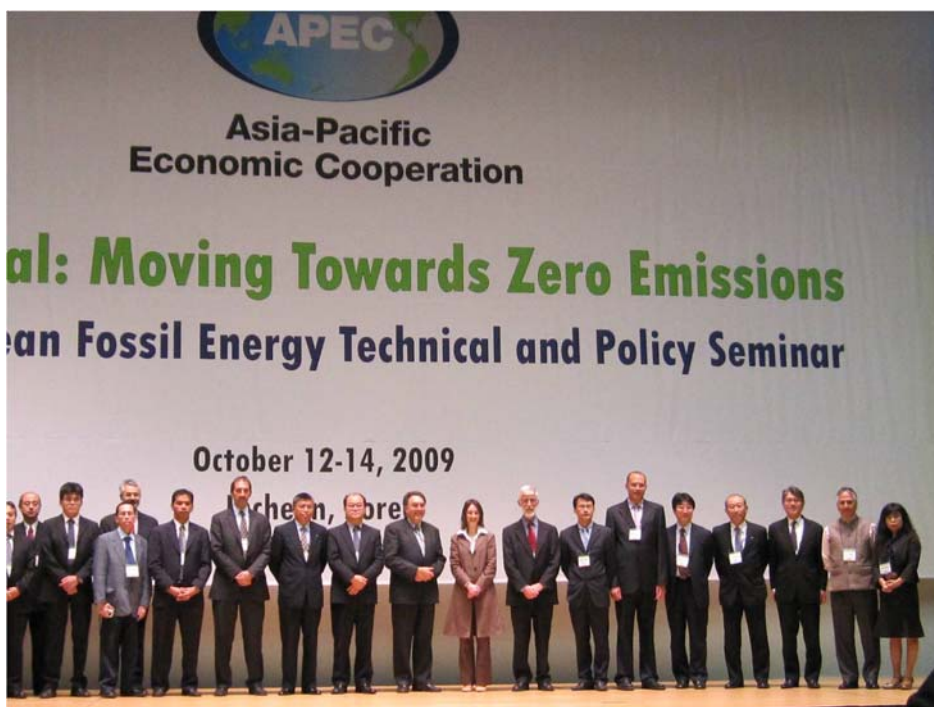


## ■内容

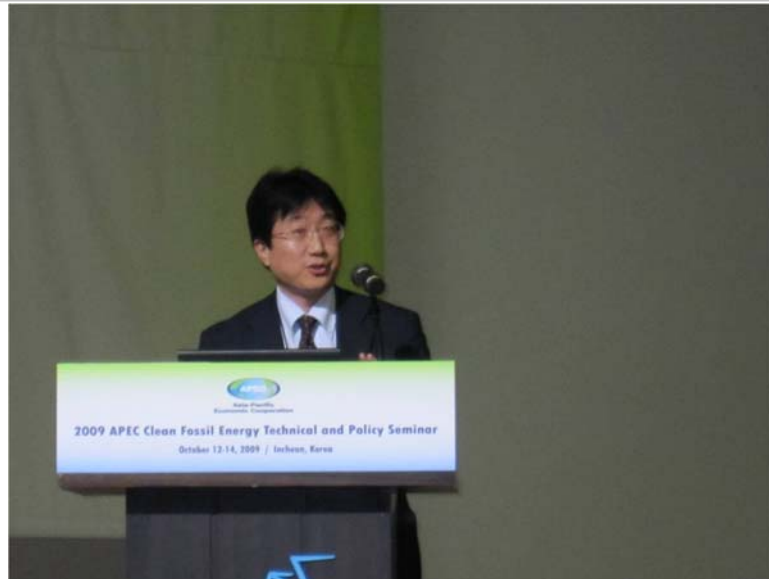
- ・ APEC 石炭セミナー開催速報(韓国)
- ・ DSC14(危険物・固体貨物・コンテナ小委員会)で石炭のバラ積み輸送について「高温場所」の統一解釈案を策定(世界)
- ・ Enhanced Gas Recovery(炭鉱ガス増進回収)(豪州)
- ・ 中国の炭鉱事故について
- ・ タンゲラン市で、石炭ターミナルが建設される
- ・ アネカタンバン(株)は、3 社の石炭鉱山会社に対してデュー・デリジェンス(鑑定評価)を行っている
- ・ 石炭運搬用のトラック 23 台、コンテナ 6 台が検挙された
- ・ ルブック・ラウエの地震被災者 40 名

## ■APEC 石炭セミナー開催速報

10 月 12-14 日の 3 日間、韓国仁川松島会議場(Songdo Convensia)において、アジア・太平洋石炭セミナー(クリーン化石エネルギー技術・政策セミナー)が開催された。セミナーは APEC 化石燃料専門家グループ(EGCFE)が主催、日本経済産業省(METI)、韓国知識経済省(MKE)、米国エネルギー省(DOE)が運営するもので、テーマは、「Cleaner Coal: Moving Towards Zero Emissions」であった。



参加者は 12 ヶ国から約 230 名、7 セッションにおいて世界・APEC 及び APEC 各地域の石炭需給予測、先進 CCT、CCS などの項目で講演と質疑が行われ、最後に METI 國友宏俊石炭課長による日本の CCT 政策が発表されてセミナーを総括した。



日本からは、METI(國友石炭課長、渡部企画官)、NEDO、RITE、J-Power、JCOAL から合計 13 名が参加した。

JCOAL は、中垣会長が基調講演、櫻井専務が「世界の石炭需給」を講演した。

セミナー終了後には Yeongheung 火力発電所のサイトツアーが実施された。セミナーでの主な講演内容は別途報告する予定だが、概要を記す。

- ・ 中国:生産は 27.93 億トン、年産 1 千万トン以上の大型炭鉱が坑内掘 17 鉱、露天掘 7 鉱と大型企業化。石炭は基幹エネルギーであり、94%を占める坑内採掘では深部採掘や高ガス炭鉱が多く、安全生産が重要。2009 年は輸入超過状態で、需要見込みは 29 億トンであるが、2020 年は 38 億トンと予測。
- ・ インド:生産は年間 5 億トン、インド石炭公社 CIL と公営 SCCL の寡占状態。経済成長は 7.5%で

(財) 石炭エネルギーセンター 〒108-0073 東京都港区三田 3-14-10 明治安田生命三田ビル 9F

E-mail: [jcoal-qa@jcoal.or.jp](mailto:jcoal-qa@jcoal.or.jp) 電話 03(6400)5193 Fax 03(6400)5206

エネルギー需要増は年率 7%。坑内採掘は 19%である。国内生産計画が未達成で需給ギャップが拡大し、輸入は 59 百万トン。社会の持続発展には、民間企業育成、探査、外資誘致、ハイウォール採炭、CBM、地下ガス化、石炭液化、有効土地利用および鉱害対策等の課題が山積。APP 選炭事業については米国西バージニア大から報告。

- ・ 韓国:原子力への転換。石炭調達方針は供給安定のため長期契約の方向へ。
- ・ フィリピン:DOE は増加する需要に対応して国内炭生産の拡大を計画。
- ・ インドネシアは研究機関 TekMIRA が参加。



JCOAL アジア太平洋コールフローセンター 事務局

### ■DSC14(危険物・固体貨物・コンテナ小委員会)で石炭のバラ積み輸送について「高温場所」の統一解釈案を策定

IMSBC コードは、『ホット エリア』に隣接する船倉への石炭積載を禁止している。従来、ガイドラインであった IMSBC コードは、2008 年 11 月に開催された MSC86 において 2011 年 1 月 1 日から強制要件として発効することとなった。IMSBC コードの強制化においては、『ホット エリア』の解釈が明確でなく、仮に『ホットエリア』を燃料タンクと解釈すると、多くの船倉で石炭の積載できないこととなり、石炭の海上輸送へ著しい悪影響が及ぶ懸念があった。

本件は、日本海事検定協会が企画運営する危険物等海上運送国際基準検討委員会が取り扱って

おり、同委員会の下部組織である特殊貨物運送部会の下に 2008 年 9 月、新たに石炭運送作業部会を設立し対応を図った。

本作業部会において、業界団体と JCOAL が、『船倉内の石炭の自然発熱シミュレーション(出光興産(株)石炭・環境研究所へ委託)』を実施し、日本船主協会が『発火事故事例の検証と石炭輸送時の船倉壁面の温度測定』を行った。これらの検討結果を基に、日本は、燃料タンク隣接部を『ホット エリア』としない解釈案を IMO へ提案し、DSC14で討議されることになった。

DSC14 は、9 月 21-25 日ロンドンで開催され、日本からは、国土交通省・在英国大使館・海上技術安全研究所他が参加、参加国は、26 ヶ国に達した。プレリナリー(全体会議)において日本提案に異論を唱える国はなく、作業部会で温度や時間について詳細な討議が為され、最終的には、下記の解釈案が採択された。

以下の条件をひとつでも満たすと『ホット エリア』と定義される。

- ・ 任意の 24 時間において、合計して 12 時間以上 55℃を超える。
- ・ 瞬間的に最高温度が 65℃を超える

日本提案がほぼ原案通りに採択された結果、『ホット エリア』の解釈から燃料油タンク隣接部は除外され、セッティングタンク及びサービスタンク隣接部が対象となった。これにより、IMSBC コードが強制化されても、船による石炭輸送が制約を受ける懸念は払拭され、ほぼ現状ベースで船による石炭の輸送が継続できることとなった。

なお、DSC14 で採択された解釈案は、2010 年 5 月に開催される MSC87において正式に承認され、IMSBC コードの附則として制定される予定ある。また、過去、DSC から MSC へ上申された案で否決された事例はない。

以上

#### 【参考資料】

注①: 石炭輸送船における燃料油の流れと温度

燃料油タンク(40~50℃)⇒セッティングタンク(70℃前後)⇒サービスタンク(90~110℃)⇒エンジン

注②: 日本船主協会によると、セッティングタンクが船倉に隣接する船は、7 隻。この内 4 隻は改造を計画(2 隻は改造済み)、残りの 3 隻は石炭以外のバラ積貨物の輸送に特化する方針。

また、サービスタンクが船倉に隣接する船は、1 隻あり、本船は過去発火事例があり、既に改造済み。

また、日本造船工業会と中小型造船工業会によると、セッティングタンク及びサービスタンクが船倉に隣接する構造の船の造船計画はないとのこと。

IMSBC; International Maritime Solid Bulk Cargoes

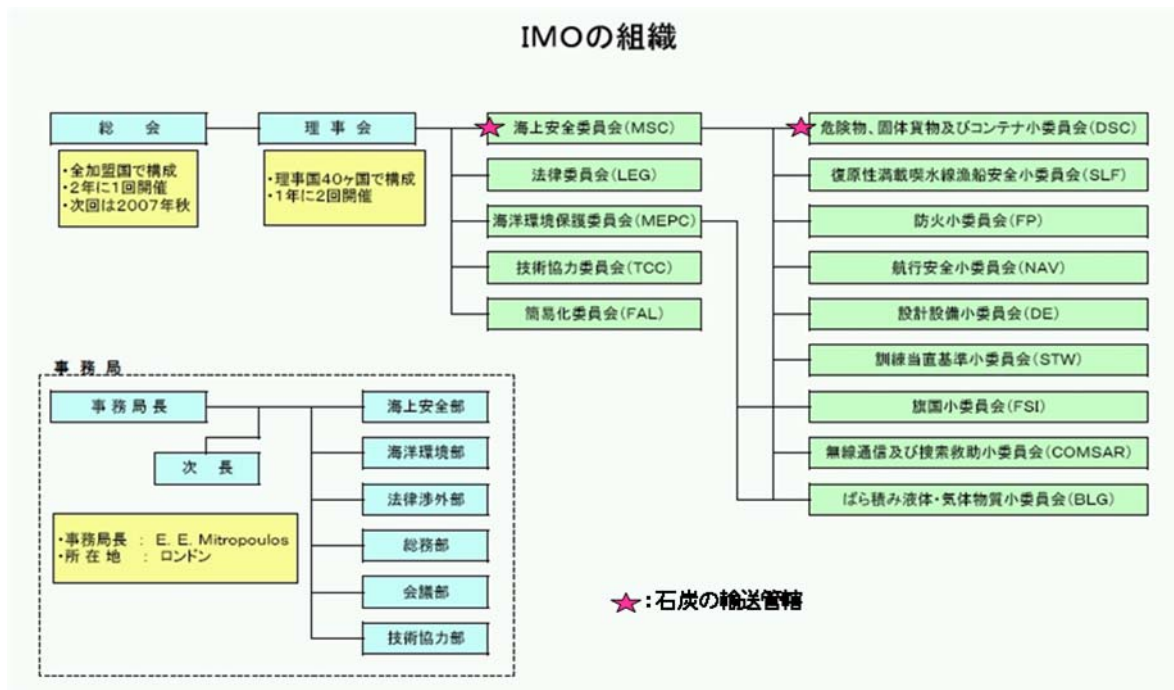
国際海上個体ばら積み貨物コード/従来 BC コードと呼ばれていたが、強制化に伴い IMSBC コードに変更

MSC: 海上安全委員会

DSC: 危険物、固体貨物及びコンテナ小委員会:

(財) 石炭エネルギーセンター 〒108-0073 東京都港区三田 3-14-10 明治安田生命三田ビル 9F

E-mail: [jcoal-qa@jcoal.or.jp](mailto:jcoal-qa@jcoal.or.jp) 電話 03(6400)5193 Fax 03(6400)5206



JCOAL 企画調整部 田丸和博

### ■Enhanced Gas Recovery(炭鉱ガス増進回収)(豪州)

豪州 NSW 大学が実施している増進ガス抜き( ECBM )に関する研究は石炭産業へ大きな影響を与える可能性がある。この研究により低浸透率の石炭からのより早いメタンガス抜きと温暖化ガス削減を達成できるかもしれない。

最新の研究は NSW 大学の Russel Packham 氏が ACARP 大学院奨学金制度の下で実施されている。これは NSW 大学の博士号課程の一部であり、CSIRO 石油部門との共同研究である。

Packham 氏の研究は窒素のようなガスを石炭層へ圧入し、メタンを早急に追い出すことで、現状のガス抜き技術よりも高い回収率を得ることができるというものである。「この技術は石炭産業界でのガス抜きに関して大きな意味がある。従来では容認できない程長期間のガス抜きを必要としていた低浸透率の石炭からガスを抜き出す技術である。」と Packham 氏は Australian Longwall Magazine で述べている。

「この技術は、掘進機械が石炭を採掘する時に温暖化ガスを発生しないレベルまでメタンを削減できる可能性を提供する。そして摩擦着火と温暖化ガス発生の両方を削減する技術でもある。」Packham 氏は窒素を残留メタンの回収に使用する場合の挙動をモデル化する目的で、QLD 州の地表ガス抜き坑井から得られるガス生産データのヒストリカル・マッチングを行っており、現在まで良い結果を得ている。プロジェクトは単なる理論に留まらず、今年第三四半期には現場試験が計画されている。Packham 氏によると、順調に進めば、このトライアルは世界で最初のものとなる。トライアルは 3～6 ヶ月の期間であり、挙動のヒストリカル・マッチングを 2010 年上半旬に実施する。

Packham 氏は低浸透率石炭でのトライアルの可能性を検討しているが、未だ概念設計段階である。この作業は Longwall 用の石炭埋蔵量がガス抜きに必要とする時間が長過ぎるために不可採炭量となっている Hunter Valley のような地域を持つ豪州にとって極めて有益である。石炭埋蔵量は Illawarra 炭田の例に見られるように、ガス抜きの限界によっても不可採となる。

ガス抜き技術を坑内炭鉱分野へ適用させるという Packham 氏の研究は新しいものではあるが、理論は新しいものではない。石炭からのガス回収を増進するための技術は米国 San Juan 炭田において 1998 年に実施され、ガス生産量を 500%増加させる結果を示している。この技術には、注入ガスを使って CBM 拡散を刺激して炭層浸透率を増加させることも含まれている。それ以降に更なるトライアルがカナダや日本(JCOAL 注:METI 補助金 PJ で夕張において実施された二酸化炭素炭層固定化技術開発)で実施され、窒素注入による浸透率改善の結果を得ている。

炭鉱での課題の一つは回収増進のための窒素供給である。幸運なことに、QLD 州の坑内掘炭鉱では Longwall 採掘跡の自然発火防止のために窒素製造膜装置が一般的に導入されており、地表の事前ガス抜き坑井へガスを注入するのに適したシステムを持っている。

Illawarra 炭田のように浸透率が低く高いガス包蔵量を持つ石炭からのガス抜きを効率的に実施するには、より高い注入圧力が必要となる。

研究には、どのような増進回収システムが坑内炭鉱のガス抜き装置に適合できるか決定する一方で、地表からの高圧窒素パイプラインの設置を避ける方法の検討も含まれる。

「炭鉱ガス抜きの作業における増進ガス回収はガス抜き業務に変化を与える可能性がある。浸透率の低い石炭でのガス抜きそして極めて低い残留ガス・レベルを達成する目的は、現在まで非現実的であったが、技術的に実行可能なものである。」と Packham 氏は述べている。

International Longwall News, 2009 10 8

(June 2009 Australian Longwall Magazine に本件につき掲載あり)

## ■中国の炭鉱事故について

9 月 28 日の国家安全監察総局 web 情報により、2009 年上半期に出炭能力が凡そ 2,500 万 t/年ある 473 ヶ所の小炭鉱を閉鎖した。小炭鉱を閉鎖しながら大型炭鉱化の M&A を推進するのは、国の保安向上施策である。一方、8 月以来のガス爆発事故でみると、小炭鉱の保安確保問題が依然厳しい。

- ・ 9 月 8 日深夜 1 時、河南省平頂山市新華区新華四鉱でガス爆発事故が発生し、9 月 27 日 17 時現在、事故による死亡者が 67 名で(66 名は遺体が判明、1 名は DNA 鑑定中)、9 名が行方不明。
- ・ 8 月 3 日、貴州省黔东南州天柱県石坪大湾炭鉱(9 万 t/年)でガスによる窒息事故が発生し、3 人が死亡。
- ・ 8 月 6 日、新疆ウイグル自治区昌吉州富通炭鉱(9 万 t/年)でガス爆発事故が発生し、5 人が死亡。
- ・ 8 月 13 日、貴州省六盤水市六枝特区青菜塘炭鉱(30 万 t/年)掘進切羽で石炭とガス突出事故が発生し、3 人が死亡、1 人が負傷。

- ・ 8 月 24 日、貴州省六盤水市盤県にある違法小炭鉱でガス窒息事故が発生し、4 人が死亡。
- ・ 8 月 24 日、山西省晋中市和順県山西星光煤業公司(120 万 t/年、株式の 50%以上は国有企業が所有)でガス爆発事故で 14 人が死亡。
- ・ 8 月 25 日、雲南省昭通市昭楊区季家老林 1 号炭鉱(3 万 t/年)でガス爆発事故で 4 人死亡、1 人が負傷。
- ・ 8 月 26 日、貴州省筆節地区黔西県江豊炭鉱(15 万 t/年)で石炭とガス爆発事故が発生し、6 人が死亡、1 人が行方不明、3 人が負傷。

JCOAL 総務部 常 静

### ■タンゲラン市で、石炭ターミナルが建設される

タンゲラン市-政府は、近い将来にバンテン州南タンゲラン市ラワメカルジャヤ村(セルボン地区)で石炭積み卸しの石炭ターミナル建設を計画している。月曜日にタンゲラン市で、運輸省鉄道事務局長タンジュン・インデラワン氏は、“我々は、セルボン地区に石炭ターミナルを建設するために、地域環境機構による環境比較調査(環境影響分析)の結果を待っている”と述べた。

政府は、石炭ターミナルとなる現場に対して、南タンゲラン市地域環境機構が行っている環境影響分析の結果を要求している。タンジュン氏によると、セルボン地区で石炭ターミナルと建設される予定の現場や設計状況は確認したが、環境影響分析の結果についてはまだ聞いていないとのことである。

“地域環境機構が行っている環境影響分析は、現場周辺の環境に影響がないか調査しており、その結果によって我々は石炭ターミナルを建設することが可能かどうかを再チェックする。”と述べた。タンジュン氏は、石炭ターミナルを建設するためには幾つかの克服すべき事項があり、いつ開始するかについては決定できないと述べた。

ジャカルタ市、ボゴル市、タンゲラン市、バンテン市、ベカシ市などへの石炭供給のために、路線の有利性があるセルボン地区・ラワメカルジャヤ村が石炭ターミナル建設候補地として選ばれた。以前、西ジャワ州(チタヤム市、ナンボ市、チビノン市、デポック市)で石炭ターミナル建設が提案されたが、それと比較するとセルボン地区ラワメカルジャヤ村の方が地理的に有利であり戦略的である。

一方、南タンゲラン市地域環境機構責任者ラクマン・スヘンダル氏は、タナーアバン地区、セルボン地区、マジヤ地区を結ぶ石炭ターミナル建設が浮上しており、これらの初期段階の現場周辺環境影響調査が不可欠であり、環境影響分析はより詳細な調査研究が必要であると指摘する。“環境影響分析評価が現在進行中で、いつ結果が出るのか、いつ完了するのかまだ判らない”と述べた。

Republika Newsroom, 2009 9 22

### ■アネカタンバン(株)は、3 社の石炭鉱山会社に対してデュー・デリジェンス(鑑定評価)を行っている

PT. Aneka Tambang (アネカタンバン(株))は、石炭鉱山会社 3 社に対してデュー・デリジェンスを行っている。これは、炭鉱会社を 1 社か、またはそれ以上の石炭鉱山会社を買収するというこれまでの姿勢と関連している。

アネカタンバン(株)のアルウィン・シャー・ルビス社長によると、石炭企業を買収する段階はデュー・デリジェンスのプロセスに入っている。このプロセスでは石炭企業 3 社がその対象となっている。しかし、アルウィン・シャー・ルビス社長はその石炭会社 3 社の場所については言及していない。10 月 7 日にジャカルタ市でアルウィン社長は、“当社は、年間 200 万トンのニーズを満たすために、石炭鉱山会社を買収する。従って、買収する石炭鉱山会社は規模的にはそう大きくない”と語った。アルウィン社長は、大規模な石炭鉱山会社を買収する可能性があることについては言及していないが、石炭会社を買収する計画は、東南スラウェシ州・ポマラ市で 3 億 USD を投資する 75MW x2 の火力発電所の石炭消費量を満たす目的で進められている。

計画では、2010 年に火力発電所を稼働させ、アネカタンバン(株)が所有しているポマラ地区にあるフェロニッケル工場の代替エネルギー源を確保する。

買収する石炭会社の生産量が当発電所の使用量を上回る場合はその余剰石炭は国営電力会社に供給される。来年に発電所が稼働した時に、この買収プロセスを完成することが出来ることをアルウィン社長が期待している。

現在、アネカタンバン(株)は、ボゴル市・ポンコル金山から、年に約 2.9トンの金を生産しているが、当社が、バンテン州にあるチバリウン金山を買収することが決定したので、2010 年と 2011 年に、それぞれ約 3.7トン/年と 4.7トン/年の金生産を増やすことが出来ると期待している。チバリウン金山の予想埋蔵量は約 15.8トンで、年に 2,200kgの金を生産することが可能である。これらの仮定から見るとチバリウン金山は 6 年間操業することが出来ると推定される。チバリウン金山の操業が開始したら、アネカタンバン(株)は、将来的には年間約 5トンの総生産量を達することが出来る。

ビジネスインドネシア, 2009 10 7

### ■石炭運搬用のトラック 23 台、コンテナ 6 台が検挙された

石炭運搬や農林業関係の運搬は主に国道が利用されているが、2008 年 3 月に国道利用が禁止された。この規制による取り締まりを強化している総合警察チームは今回カリマンタンの国道を通過している数十台のトラックやコンテナを検挙した。

月曜日(10 月 5 日)南カリマンタン通信局道路交通部長ラモンシャ氏は“地方規則が発行してから厳しい罰則が設けられたが、規則に違反した運転手や石炭会社が多い。地方警察署、通信局、炭鉱会社がチームになって、数か月かけて取り締まりを行ってきたが、今回違法の石炭運搬用のトラック 23 台とコンテナ 6 台を検挙し、違法の石炭を押収した。また、運転手及び石炭の持ち主から 100 万ルピアから 500 万ルピアの罰金も徴収した。”と語った。

2008 年 3 月のこの地方条例はカリマンタン国道に石炭の運搬が増加することによる国道の損傷や環境汚染の防止、また、交通事故の減少を目標に適用された。一方国道に替わる州道 13 線の整備はまだ建設に至っていない。それで、地方政府は一部 5 社の地方産業、11 社の協同組合、31 社の農林会社に対して石炭やヤシの実を運搬するために特別許可が出されている。

ラモンシャ氏は“地方規則を適用することによって、交通事故の件数を減らすことができ、カリマンタ



ン国道の交通をスムーズに維持することができた。”と言った。

農林会社のグループや鉱区権者、トラック会社からの抗議はあったものの、南カリマンタン市長ルディ・アリフィン氏はこの地方規則を発行した。ただ、鉱山鉱区権者・鉱山会社の協会の秘書ムハammad・ソリヒン氏は“2008年3月地方規則は南カリマンタンの会社と何十万人の雇用の場を麻痺させた。”と語った。

ビジネスインドネシア, 2009 10 5

### ■ルブック・ラウエの地震被災者 40 名

エネルギー鉱物資源省の災害対策員は他の隊員と一緒に西スマトラに発生した地震による被災者救助活動を行っている。生きた状態で、また、残念ながら死んだ状態で被災者を見つけ出している。今日(10月6日)基地のあるカポロコト村から2kmぐらい離れたルブック・ラウエ村で救済活動を行った。

その村に地震の勢いで潰れ果てた店やモスクの破片に埋まり、まだ救出されていない40名の被災者がいることは、その後の調査で分かった。地震が発生したときにちょうどそのモスクでコーランの勉強会をしていて、大人や子供と一緒に埋まった。一人の隊員は現場の状況から見て、生存者はもはやいないだろうが、被害者を救援できるよう絶えず神様にお祈りを続けていると語った。救助活動に参加している隊はアダロ、アンタム・ポンコール、アンタム・パモラ、ビコ、ブラウコール、パマから派遣された人たちである。パダンでの救済活動は絶えず行われている

一日前に(月曜日10月5日)エネルギー鉱物資源省の災害対策員はアンバチャンホテル、ルブック・ラウエ村、東リマコトの3箇所の現場に割り当てられた。状況がひどいアンバチャンホテルにはフリーポート、KPC、ニューモント、ブキットアサム、アルトミンからの救護隊とインドネシア国救護隊、国軍、国家警察が一緒になって救護に当たっている。被災者のところまでコンクリートや鉄の切断機を使ってアクセス道が作られた。この活動は未明2時から行われているが火曜日の朝までに、まだ一人しか遺体を収容できていない。

一方、ルブック・ラウエ村にはアンタム・ポンコル、アンタム・パモラ、アダロ、インコ、ビコ、ブラウコールの6チームが作業にあたっている。昨日(10月5日)このチームは大人男性4、女性2名、男子2名、計8名の遺体を回収した。4名は土砂崩れの中から、後4名は潰れた建物から収容された。

それから東リマコト村にはキデコ、インドミンコ、アンタム・パモラチームが配置された。このチームは1人の遺体を収容した。また、チームは救出の活動の他にも各家を訪問し、怪我人の手当てを行い、薬や食糧を配った。

エネルギー鉱物資源省鉱物石炭地熱総局 HP, 2009 10 6

### 【石炭関連国際会議情報】

**Coaltrans London 2009 conference**  
London, UK, 25-27 Oct 2009  
Email: [registrations@coaltrans.com](mailto:registrations@coaltrans.com)  
Internet: <http://www.coaltrans.com>

(財) 石炭エネルギーセンター 〒108-0073 東京都港区三田 3-14-10 明治安田生命三田ビル 9F

E-mail: [jcoal-qa@jcoal.or.jp](mailto:jcoal-qa@jcoal.or.jp) 電話 03(6400)5193 Fax 03(6400)5206

---

**15th international conference on coal science & technology (ICCS&T)**

Cape Town, South Africa, 26-29 Oct 2009

Email: [angelique.freyer@sasol.com](mailto:angelique.freyer@sasol.com)

Internet: <http://www.iccst.info>

**Seminar on carbon capture and storage - making it happen**

London, UK, 28-29 Oct 2009

Email: [t\\_khatun@imeche.org](mailto:t_khatun@imeche.org)

Internet: [www.imeche.org/events/s1439](http://www.imeche.org/events/s1439)

**VGB conference on chemistry in power plants 2009 with technical exhibition**

Dresden, Germany, 28-29 Oct 2009

Email: [ines.moors@vgb.org](mailto:ines.moors@vgb.org)

Internet: [http://www.vgb.org/en/cik\\_09\\_e.html](http://www.vgb.org/en/cik_09_e.html)

**3rd international symposium on CO2 capture and geological storage**

Paris, France, 5-6 Nov 2009

Email: [patricia.fulgoni@ifp.fr](mailto:patricia.fulgoni@ifp.fr)

Internet: [www.co2symposium.com](http://www.co2symposium.com)

**Carbon capture and storage for utilities: shovels in the ground for 1st generation facilities**

Atlanta, GA, USA, 9-10 Nov 2009

Internet: [www.euci.com](http://www.euci.com)

**US coal imports and exports 2009**

St. Petersburg, FL, USA, 9-10 Nov 2009

Email: [claire.lewis@mccloskeycoal.com](mailto:claire.lewis@mccloskeycoal.com)

Internet: <http://www.mccloskeycoal.com/conferences>

**9th international symposium on CBM/CMM and carbon trading in China**

Beijing, China, 10-11 Nov 2009

Email: [cbmc@coalinfo.net.cn](mailto:cbmc@coalinfo.net.cn)

Internet: [www.coalinfo.net.cn](http://www.coalinfo.net.cn)

**9th international mine ventilation congress**

New Delhi, India, 10-13 Nov 2009

Email: [info@9thimvc.org](mailto:info@9thimvc.org)

Internet: [www.9thimvc.org](http://www.9thimvc.org)

**China coal conversion high tech international forum**

Xi'an, China, 11-13 Nov 2009

Email: [contact@galleonevents.com](mailto:contact@galleonevents.com)

**4th workshop of UNECE Ad Hoc Group of Experts on Cleaner Electricity Production from Coal and Other Fossil Fuels**

Geneva, Switzerland, 16-17 Nov 2009

Email: [info.ece@unece.org](mailto:info.ece@unece.org)

**Colloquium on the role of coal in a carbon-constrained economy. Part 1**

Johannesburg, South Africa, 17 Nov 2009

Email: [robbie@rca.co.za](mailto:robbie@rca.co.za)

Internet: <http://www.fossilfuel.co.za/Role%20of%20Coal%20Announcement.pdf>

**Conference on coal mine methane**

London, UK, 23-24 Nov 2009

Email: [aworsfold@smi-online.co.uk](mailto:aworsfold@smi-online.co.uk)

Internet: [www.smiproduction@smi-online.co.uk](http://www.smiproduction@smi-online.co.uk)

**Carbon capture and storage forum**

London, UK, 25 Nov 2009

Email: [conferences@marketforce.eu.com](mailto:conferences@marketforce.eu.com)

Internet: [www.marketforce.eu.com/ccs](http://www.marketforce.eu.com/ccs)

---

**7th Asian coal conference 2009**

Bali, Indonesia, 1-3 Dec 2009  
Email: [letoya.anderson@mccloskeycoal.com](mailto:letoya.anderson@mccloskeycoal.com)  
Internet: [www.mccloskeycoal.com/conferences](http://www.mccloskeycoal.com/conferences)

**2009 coal trading conference**

New York, NY, USA, 7-8 Dec 2009  
Internet: <http://www.clean-coal.info/drupal/eventlist>

**2009 Power-Gen international conference**

Las Vegas, NV, USA, 8-10 Dec 2009  
Email: [pgiconference@pennwell.com](mailto:pgiconference@pennwell.com)  
Internet: [www.power-gen.com/index.html](http://www.power-gen.com/index.html)

**Conference on coal markets**

Singapore, Singapore, Jan 2010  
Email: [aileen.vitug@ibcasia.com.sg](mailto:aileen.vitug@ibcasia.com.sg)  
Internet: [www.ibc-asia.com](http://www.ibc-asia.com)

**South African coal exports conference 2010**

Cape Town, South Africa, 26-28 Jan 2010  
Email: [letoya.anderson@mccloskeycoal.com](mailto:letoya.anderson@mccloskeycoal.com)  
Internet: [www.mccloskeycoal.com/conferences](http://www.mccloskeycoal.com/conferences)

**10th annual Coaltrans Americas**

Miami, FL, USA, 28-29 Jan 2010  
Email: [registrations@coaltrans.com](mailto:registrations@coaltrans.com)  
Internet: [www.coaltrans.com](http://www.coaltrans.com)

**8th annual coal 2010 markets**

Singapore, Singapore, 28-29 Jan 2010  
Email: [aileen.vitug@ibcasia.com.sg](mailto:aileen.vitug@ibcasia.com.sg)  
Internet: [www.ibc-asia.com](http://www.ibc-asia.com)

**Colloquium on the role of coal in a carbon-constrained economy. Part 2**

Johannesburg, South Africa, 17 Feb 2010  
Email: [robbie@rca.co.za](mailto:robbie@rca.co.za)  
Internet: [www.fossilfuel.co.za/Role%20of%20Coal%20Announcement.pdf](http://www.fossilfuel.co.za/Role%20of%20Coal%20Announcement.pdf)

**Coal UK conference and awards dinner 2010**

London, UK, 23 Feb 2010  
Email: [letoya.anderson@mccloskeycoal.com](mailto:letoya.anderson@mccloskeycoal.com)  
Internet: [www.mccloskeycoal.com/conferences](http://www.mccloskeycoal.com/conferences)

**4th annual European carbon capture and storage conference**

London, UK, 23-24 Feb 2010  
Email: [stacey\\_knox@platts.com](mailto:stacey_knox@platts.com)  
Internet: [www.platts.com/ConferenceDetail.aspx?xmlpath=2010/pc065/index.xml](http://www.platts.com/ConferenceDetail.aspx?xmlpath=2010/pc065/index.xml)

**VGB conference on maintenance in power plants 2010 with technical exhibition**

Bremen, Germany, 24-25 Feb 2010  
Email: [heinrich.grimmelt@vgb.org](mailto:heinrich.grimmelt@vgb.org)  
Internet: [www.vgb.org/en/inst\\_2010\\_e.html](http://www.vgb.org/en/inst_2010_e.html)

**Colloquium on the role of coal in a carbon-constrained economy. Part 2**

Johannesburg, South Africa, 17 Feb 2010  
Email: [robbie@rca.co.za](mailto:robbie@rca.co.za)  
Internet: <http://www.fossilfuel.co.za/Role%20of%20Coal%20Announcement.pdf>

**18th annual conference on coal properties & investment**

Ft. Lauderdale, FL, USA, 15-16 Mar 2010  
Email: [ron\\_berg@platts.com](mailto:ron_berg@platts.com)  
Internet: [www.platts.com/ConferenceDetail.aspx?xmlpath=2010/pc010/index.xml](http://www.platts.com/ConferenceDetail.aspx?xmlpath=2010/pc010/index.xml)

**Coal conference of the Americas 2010**

Cartagena, Colombia, 16-18 Mar 2010  
Email: [letoya.anderson@mccloskeycoal.com](mailto:letoya.anderson@mccloskeycoal.com)  
Internet: [www.mccloskeycoal.com/conferences](http://www.mccloskeycoal.com/conferences)

**Powe-Gen India & Central Asia 2010**

New Delhi, India, 21-23 Apr 2010  
Email: [paperspgica@pennwell.com](mailto:paperspgica@pennwell.com)  
Internet: [www.power-genindia.com](http://www.power-genindia.com)

**XVI international coal preparation congress**

Lexington, KY, USA, 25-30 Apr 2010  
Internet: [www.icpc2010.com](http://www.icpc2010.com)

**35th international technical conference on clean coal & fuel systems**

Clearwater, FL, USA, 6-10 Jun 2010  
Email: [BarbaraSak@aol.com](mailto:BarbaraSak@aol.com)  
Internet: [www.coaltechnologies.com](http://www.coaltechnologies.com)

**Coal-Gen 2010 conference**

Pittsburgh, PA, USA, 11-13 Aug 2010  
Email: [jenniferl@pennwell.com](mailto:jenniferl@pennwell.com)  
Internet: [www.coal-gen.com/index.html](http://www.coal-gen.com/index.html)

**21st World Energy Congress: Montreal 2010**

Montreal, PQ, Canada, 12-16 Sep 2010  
Internet: [www.wecmontreal2010.ca/en/home.html](http://www.wecmontreal2010.ca/en/home.html)

**8th European coal conference**

Darmstadt, Germany, 10-13 Oct 2010  
Email: [juch@gd.nrw.de](mailto:juch@gd.nrw.de)  
Internet: [www.GeoDarmstadt2010.de](http://www.GeoDarmstadt2010.de)

**World of coal ash 2011 (WOCA 2011)**

Denver, CO, USA, 9-12 May 2011  
Email: [info@acaa-usa.org](mailto:info@acaa-usa.org)  
Internet: [www.worldofcoalash.org](http://www.worldofcoalash.org)

編集者から※

メールマガジン第 40 号の発行について

JCOAL では、JCOAL への期待と責務を感じ、何をなすべきか自問自答しながら、石炭関連の最新情報や JCOAL 活動状況について速報しています。

発信情報をより充実させるためにも、多くの方からのご意見、ご希望、及び情報提供をお待ちしております。興味ある分野や地域について、ご連絡をお待ちしております。

(編集子)

このメールマガジンの内容は JCOAL の組織としての見解を示すものではありません。

お問い合わせ、並びに情報提供・プレスリリースは [jcoal-qa@jcoal.or.jp](mailto:jcoal-qa@jcoal.or.jp) お願いします。

登録名、宛先変更や配信停止の場合も、[jcoal-qa@jcoal.or.jp](mailto:jcoal-qa@jcoal.or.jp) 宛てにご連絡いただきますようお願いいたします。

JCOAL メールマガジンのバックナンバーは、JCOAL ホームページにてご覧頂けます。

<http://www.jcoal.or.jp/publication/jcoalmagazine/jcoalmagazine.html>